

アグアスだより

2013年11月号

シロちゃんの登場

「シロちゃんは？」

私と顔を合わせる子どもたちの第一声は、いつもこの言葉です。あまり聞かれるので、私もつい「もう帰ったよ」とか「2階で見かけたよ」と答えるうちに、最近は「いなかった！」と矛盾を突かれ、問い詰められるようになってきました。

「シロちゃん」は犬のパペット。全校朝会に現れて、失笑をかったキャラクターです。このシロちゃんの登場以来、私の存在はすっかりかすんでしまいました。朝会の話は、例えばこのような調子です。

これからシロちゃんと英会話の勉強をします／What's your name? [よわっちゃうねえ]／Nice shot! [ないしょ]／Don't cry. [どんくらい?]／Don't cry! [こんくらい?]／My name is Tom. [・・・・]／あれ? どうしたの? [ぼく、英語が苦手なの。英語を話すのがはずかしい]／どうして? [発音が変だとみんなに笑われる]／あれ、へんだね。まちがえた時のために先生がいるんだよ。だれも間違えないのなら、先生はいらなくなっちゃう／それに、英会話は失敗してもどンドン話す子がじょうずになるんだよ。[そうか。失敗するとじょうずになるのか。ぼく、これからは恥ずかしがらずにどンドン話すようにするよ]／それでは、もう一度やろうか／My name is Tom. [マヨネーズ飲む]／・・・・シロちゃん、・・・・勉強しようね。[はい]

私が「シロちゃん」の話をするのにはわけがあります。子どもにとって、学校は失敗や間違いをしながら成長するところです。でも、それがなかなか子どもたちに伝わりません。私が全校朝会で「教室は間違えるところですよ」といっても、子どもたちはきっと「そうなのかな?」と思うだけでしょう。そこで、「シロちゃん」の登場となったのです。「シロちゃん」は失敗するけれども、素直に先生の助言を聞いて成長してゆく子にしました。予想通り、子どもたちは「ああ、シロちゃん、だめだなあ、また失敗しているよ」と思いつつ、「教室は間違えるところ」のメッセージを、多少なりとも受け止めてくれたようです。私は「シロちゃん」を通して、学級や学校を「失敗や間違いをしながら成長していくところ」に変えてもらいたかったのです。

さて、「学校は失敗するところ、間違えるところ」という話には先例があります。岐阜県小学校の先生が作った『教室はまちがうところだ』という詩です。この詩は、昭和49年に朝日新聞で紹介されて以来、子どもを主人公とする学級や授業の姿を示す教材として、全国に広く知られるようになりました。私も新任教師だった頃、この詩と出会って、こうした学級づくりや授業づくりに取り組んだものです。それから40年近く経過しました。理想に燃えた新任教師も、もはやシニア世代です。そして、日本の教育現場を見たとき、こうした理想が、必ずしも学級や授業の常識になっていない現実

に驚きます。教育の「美しい言葉」や「高い理想」は氾濫していても、学級も授業も、ちっとも子どもにとっての「間違えるところ」「失敗を乗り越えるところ」になっていないように見えるのです。かつて、中教審の鳥居委員長（当時）が、奇しくも同じようなことを話されました。鳥居先生は、年間に100以上の学校を訪問されるそうですが、「いいと思う学校は1校か2校くらいしかない」とおっしゃいます。そして、いいと感じた学校は、例外なく「失敗や間違いが許されて、それが子どもや教師の常識になっている学校」だったといえます。

もうひとつ事例を紹介しましょう。かつて、米国や豪州研修に、子どもたちを引率したことがあります。その折、現地で学ぶ日本人学生に「両国の教育の違い」について聞いてみました。即座に返ってきたのが、「こちらの学校では間違えることが許されていることです」という答えでした。さらに、「この国の学校には、間違ってもいいという空気が全体にあり、子どもは安心して学ぶことができます。日本の学校では、間違ったことをいってはいけない、失敗してはいけないという緊張感と不安がいつもあります。そこが大きな違いです」ということでした。私は「やはりそうだったのか」という思いにうたれました。私は海外研修に行くたびに、現地で学ぶ日本人学生に同じ質問をするのですが、いつも同様の返事が返ってきます。確かに、海外の学校を視察すると、高校生になっても子どもたちは活発に発言します。小学校の低学年では活発に発言しても、高学年になると発言が少なくなる日本の学校とは大きな違いがあります。その違いを、先の学生は「学ぶ安心

感」という言葉で表現したのでしょうか。そうした違いの背景には、教育文化の相違があるので、しかたがないことかもしれません。しかし、日本にもそのような学校が100校に1校程度はあるのですから、実現不可能なことではないはずです。子どもたちが安心して学ぶことのできる学校は、先のような文化を体得した教師、子ども、保護者の存在があってはじめて成立するものと思います。もちろん、そのような学校が一朝一夕にしてできるわけではありません。しかし、私はアグアス日本人学校をこそ、そのような学校にしたいと考えているのです。

「失敗は成功のもと」の言葉どおり、「シロちゃん」は、実は失敗する子ではなく、成功する子の典型ではないでしょうか。壁にぶつかり、それを乗り越えるよう努力する、そうした子こそが将来大きく伸びてゆく素地を培うからです。私はこれからも「シロちゃん」を語ることで、子どもたちが失敗や間違いを乗り越えながら、大きく成長していくよう働きかけを続けるつもりです。

11月 行事予定

- 1日（金）振替休日
- 4日（月）全校朝会、カレーの日
- 6日（水）体育集会
- 8日（金）小学部遠足
- 9日（土）漢字検定 10日（日）英語検定
- 11日（月）全校朝会、メキシコタイム授業
- 18日（月）革命記念日（祝日）
- 19日（火）全校朝会
- 21日（木）体育集会
- 22日（金）中学部期末テスト
- 25日（月）中学部期末テスト
- 26日（火）全校朝会